



## ～資源と成長の活力あふれる南半球の先進国～ オーストラリア株式の魅力

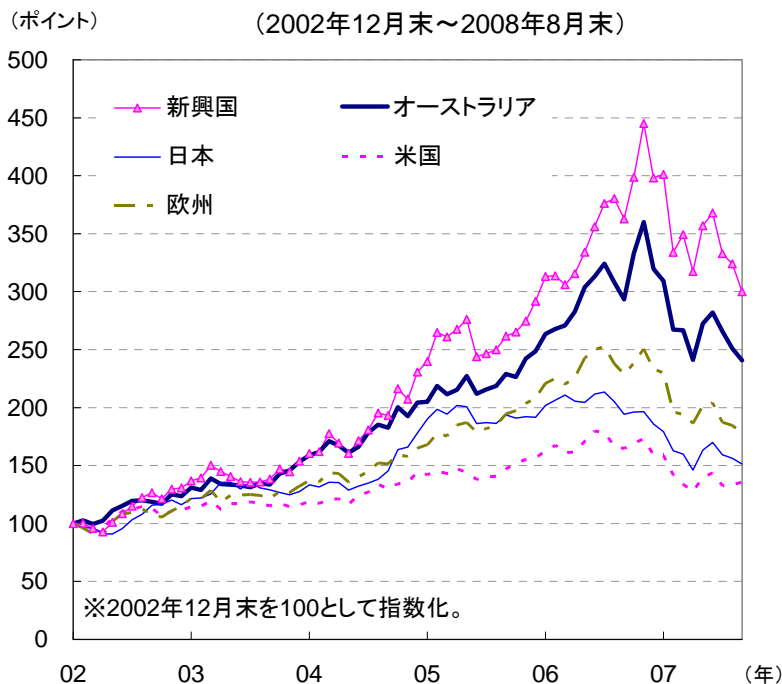
- 近年、世界の株式市場においては、BRICs(ブラジル、ロシア、インド、中国)に代表される新興国が注目されてきましたが、一方で、先進国の中でも好調な株価推移を見せてきた国が、オーストラリアです。
- 足元では調整色も見られるものの、約7年ぶりに金融緩和に転じるなど、今後の動向が注目されます。そこで本号では、オーストラリア株式の魅力と市場環境についてお伝えいたします。

### ■これまで堅調な推移を続けてきたオーストラリア株式

オーストラリアといえば、金利水準が相対的に高いことから債券投資で人気がありますが、一方で、先進国の中でも高い経済成長を続けてきたことから、株価も、2003年以降は上昇基調を続けてきました。

足元では、他の多くの市場と同様に調整を余儀なくされているものの、世界有数の資源国であることや、相対的な配当利回りの高さから、中長期的な投資対象としての魅力が高まっています。

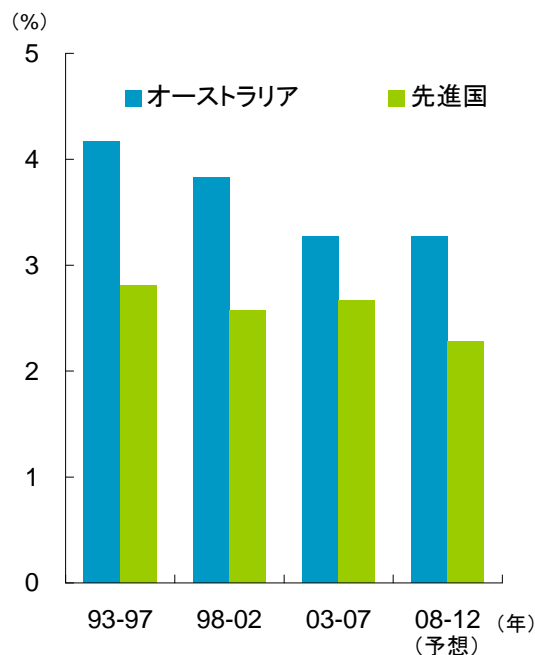
【世界主要地域の株価推移(円ベース)】



グラフで使用した指数は以下のとおり。  
新興国:MSCIエマージング・マーケット指数、オーストラリア・日本・米国・欧州:  
MSCI各国指数をそれぞれ、日興アセットマネジメントが円換算。

信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成。

【先進国のGDP成長率推移】



※ 先進国の定義および上記データ(含む予想値)は国際通貨基金(IMF)によります。

(出所:IMF「World Economic Outlook, April 2008」)

上記グラフおよびデータは過去のものまたは予想であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントがオーストラリア株式の魅力についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

## ■オーストラリアの株式市場について

### ＜2003年以降、低金利と資源需要を背景に上昇＞

2003年以降、それまでの低金利政策などを背景に企業などの資金調達が増大したこと、企業収益が堅調となり、内需も拡大しました。さらに、新興諸国を中心とした資源需要も追い風となり、オーストラリア経済および株式市場は安定的に拡大してきました。

また、資源やエネルギーセクターでM&A(企業の合併・買収)が活発に行なわれたことも、株式市場の上昇に寄与してきました。

### ＜2007年後半以降は調整局面も＞

しかしながら、2007年後半以降は世界的な信用不安の高まりに加えて、ガソリン価格の上昇や金融引き締めによって、個人消費が減速傾向となったことなどからオーストラリア株式市場も調整局面入りしました。

特に、2008年に入り、米国経済が減速するなか、オーストラリアでは利上げが継続されたこと、さらに、企業収益に対する懸念も加わり、株式市場は大きく下落しました。

### ＜7年ぶりの利下げにより、個人消費の回復に期待＞

足元でのこうした状況を受け、豪州準備銀行(RBA)は9月2日、政策金利を0.25%引き下げ、7.0%としました。これは、2001年以来約7年ぶりの出来事です。新年度の7月※からは減税政策が打ち出されていることもあり、これらの政策をきっかけに、個人消費の減速に歯止めがかかることが期待されています。

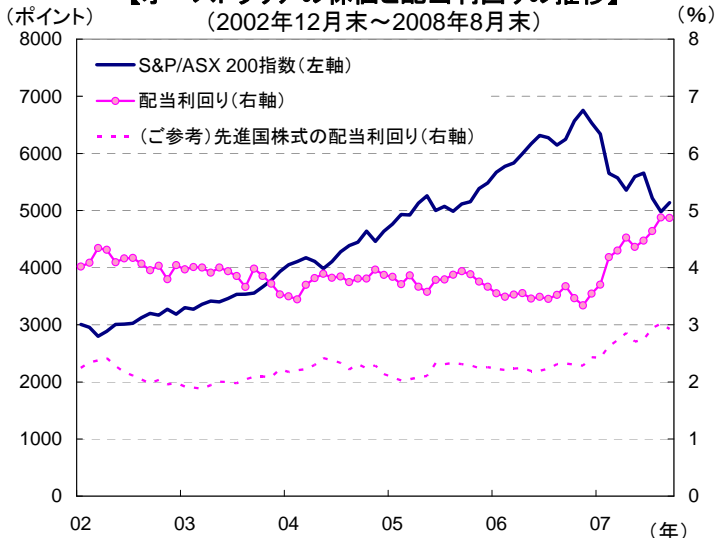
また、オーストラリアは、①移民受け入れに伴う労働力人口の増加が続いていること、②新興諸国を中心とした資源需要を背景に交易条件の改善が続いていること、③財政黒字を背景として国内インフラ投資の拡大が見込まれる、という点で、中長期的な経済成長が期待されています。

オーストラリア株式は、当面、変動率が高まる可能性はあるものの、以上のような点から、引き続き、中長期的に魅力的な投資対象であると考えられます。

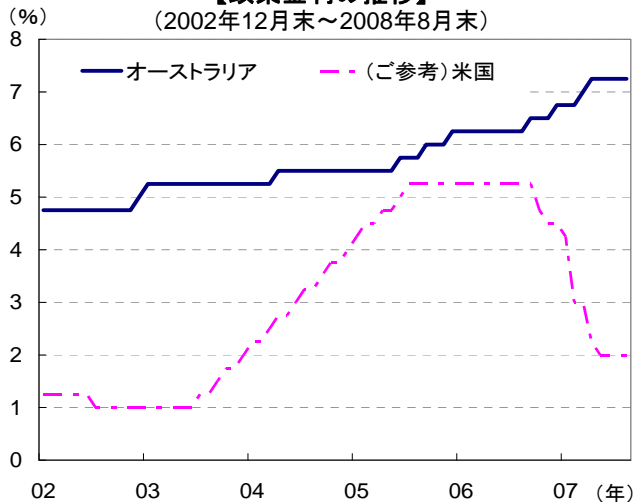
※オーストラリアの会計年度は、7月～6月となっています。

信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成。

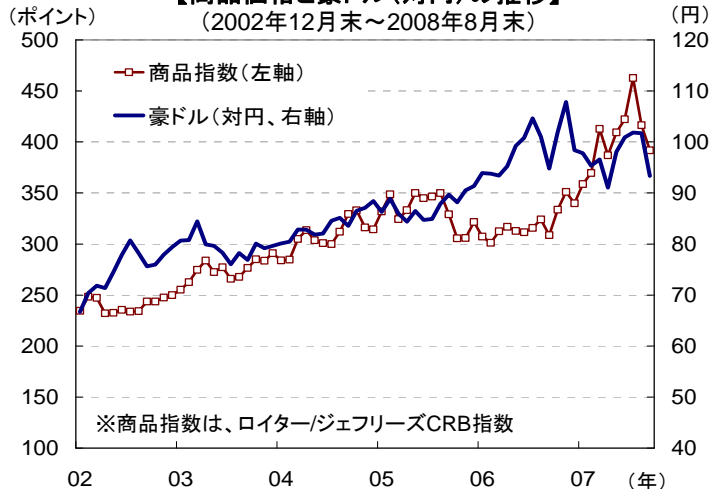
### 【オーストラリアの株価と配当利回りの推移】



### 【政策金利の推移】



### 【商品価格と豪ドル(対円)の推移】



※商品指数は、ロイター/ジェフリーズCRB指数

上記グラフおよびデータは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントがオーストラリア株式の魅力についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目録見書)をご覧ください。

## ご参考:オーストラリアの成長を支える2つのエンジン

### 1. 豊富な天然資源

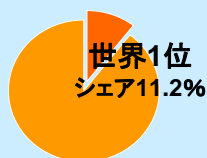


オーストラリアは世界有数の資源産出国です。近年の新興国をはじめとした世界的な資源需要の増加によって、同国への注目度はますます高まりを見せています。

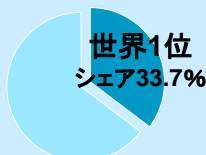
また、小麦や牛肉などの食料供給面でも強みを持っており、食料自給率が高い点も特長です。

#### 【オーストラリアの代表的な天然資源例】

#### 金の産出量



#### ボーキサイト\*の産出量



\*ボーキサイト:アルミニウムの主要原料です。

※データは2007年推計値。

(出所:米国地質調査局)

### 2. 持続的な内需の拡大

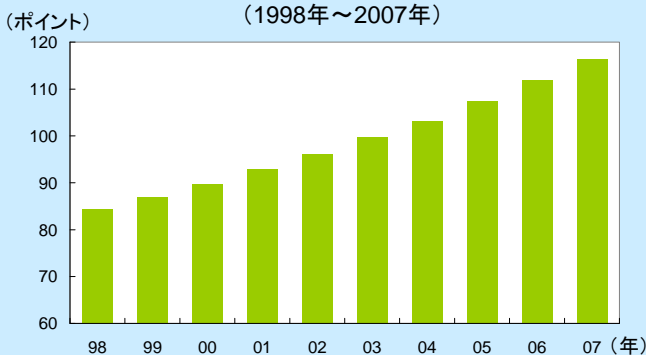


オーストラリアでは、景気拡大による所得の増加から、これまで個人消費は堅調に推移してきました。

企業による設備投資なども極めて高水準にあることから、引き続き、国内経済のけん引役として期待されます。

#### 【労働賃金指数の推移】

(1998年~2007年)



(出所:オーストラリア統計局)

## 長年にわたってオーストラリア経済を支えてきた構造改革

資源や内需など、現在の好調なオーストラリア経済の基盤となったのが、1980年代から進められた構造改革です。

労働政策や減税政策、貿易の自由化、金融自由化や民営化の促進など、多岐にわたる改革を、長年にわたって一貫して行なうことにより、オーストラリアは、持続的な経済成長を実現してきました。



上記グラフおよびデータは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

nikko am  
fund academy

日興AM  
ファンドアカデミー  
とは？

投資信託を「つくる」会社、日興アセットマネジメントが2008年にスタートした、投資教育のプラットフォーム。「すべての投資信託に共通する大切なこと」をテーマに、より深い理解と納得のもと購入していただくための活動を展開しています。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントがオーストラリア株式の魅力についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。